

ともしび

見えぬものでもあるんだよ 見えぬけれどもあるんだよ



井上直之
(釋直道)



夏の暑さが去り、散歩するにはちょうど良い季節になったので、子どもたちと公園に行きました。

公園に着くと、滑り台やブランコで遊ぶ親子連れ、野球をしている少年たち、私の娘たちもその楽しい雰囲気につられて、笑顔で走り出しました。

ついこの間まで、新型コロナウイルスの影響で使用禁止の張り紙が張られた遊具を見ては、寂しそうに帰る娘たちの姿を見ていたので、私も嬉しくなると同時に、ただ公園で遊ぶという時間がこんなにも貴重なことなのかと気づかされました。

そして、私をいちばん知らないのは私なのかもしれないと考えていました。

妻が長女を妊娠した当時、私は子どもが元気ならそれだけでいいと言っていたのに、今では「これは英語で何と言うの？」とか「まだ両手でピアノが弾けないのか」

などと言う父親になっていきます。親心というのはそれで仕方がないかも知れませんが。

娘たちが笑顔で公園を走り回る姿は、私にたくさんのお話を教えてくれている気がしました。八月に亡くなった娘達のいいじもきつと、お浄土から孫たちの姿を見て喜んでくださったことでしょう。

浄土真宗の基本、他力本願という言葉があります。一般的には人任せとか、人をあてにする、棚からぼたもち、のようにあまり良い意味で使われてはいませんが、本来はそうではありません。

自分の力ではなく、様々な働きが私に届き、救いをもたらしてくれるという意味です。他力とは阿弥陀さまのはたらきのことです。

金子みすゞの「星とたんぽぽ」という詩の中にこんな言葉があります。「見えぬものでもあるんだよ 見えぬけれどもあるんだよ」 私たちは様々なご縁の中で、仏

さまの慈悲に照らされています。報恩講は、そんな浄土真宗のみ教えをあきらかにしてください。開祖親鸞聖人を偲び、精いっぱいお勤めさせていただきたく思います。今年はお参りの人数を制限して音楽法要を勤め、インターネットで配信いたします。

古くなった床が危険だった本堂をリフォームしました。外陣と周囲の部屋を、畳からフローリングに変え、お参りの方はすべて椅子席となりました。



床が新しくなった本堂

今後の行事予定 変更について

報恩講準備に入った十月半ば、新型コロナウイルスの勢力はまだ衰えず、年内のお寺の行事の予定変更は左記の通りです。

11月8日(日) 秋嶺忌は、井上家親族並びに合唱団のみ参拝

12月13日(日) 成道会法要並びにバザーは中止

※元旦の修正会は午前10時よりお参りの方はマスク着用厳守

仏教壮年会へのお誘い



福島 慶久

宗願寺仏教壮年会の活動は先々代の大乗院釋弘三法師の時代から行われていたので、すでに四十年超を経過した長い歴史があります。昨年四月に私が会長を仰せつかりました。浄土真宗のみ教えを学ぶほか、お寺への奉仕活動を、現在十五名のメンバーで行っています。

今年にはコロナ禍で、お寺の行事や法要なども三密を避けて行われていますが、私達の壮年会の毎月の定例会も同様です。

二月に築地本願寺での日帰り研修会への参加後、しばらく休会していましたが、毎年お盆に勤めていた「全戦没者追悼法要」から再開しました。

報恩講の一週間前の土曜日には、本堂内陣の仏具を磨く恒例の「おみがき」も行うことができました。今年度はコロナ禍で休止中ですが、茨城西組内のお寺を順次回ってみ教えを学ぶ「連続研修会」にも参加しています。

現在、諸々の活動が制限を受けている状況ですが、今年にはメンバーの稲葉さんのご尽力で、宗願寺のホームページが開設され、門信徒の皆さま向けの各種情報が、インターネットを通じて発信できるようになりました。

お寺での定期的な行事のほか、諸々の活動が行われていることについて、皆さまに改めて知っていただければと思います。今後は、住職夫妻のお子さんも交えた子ども会活動や、趣味を通じたイベントの企画もしていきます。

京都のご本山や築地本願寺への参拝を兼ねた旅行会など、色々な交流活動も行えるのではとも考えています。忘年会などの、メンバーによる飲み会も行っています。門信徒の皆さま同士のリアルな触れ合いによって、交友の輪が広がればと思います。

お寺での行事以外の壮年会の活動にも、ぜひとも多くの皆さまにご参加をお願いします。様子を見るだけでも結構ですから、一度顔を出して見ませんか。

今年、以前会長を務められた河口成之さんと、前会長の田淵正大さんが往生されました。お二人の宗願寺への思いや、楽しかった思い出が胸をよぎり、会長としての責任についても考えさせられました。

私も微力ながら精進させていただきますので、皆さまのご協力、ご参加をお願いいたします。

宗願寺ホームページ



宗願寺ウェブサイトURL
<https://souwanji.com/>

田淵さん ありがとうございます

釋 由真



八月二日、坊守の父であり、長い間宗願寺を支え続けてくださった田淵正大さんが往生されました。総代、門徒推進員、世話人、そして仏教壮年会の会長として活躍されました。壮年会については、茨城西組の代表として東京教区の理事としても働いてくださいました。

入院中、会いたくても会いに行くことが叶わなかったお寺の仲間たち。残念な思いが残りましたが、今ではあの楽しい笑顔を思い浮かべながらお墓参りをし、思い出を語り合っています。



田淵正大さん

年長なのにきさくな方で、私は友達のように接してきました。私たちは食いしん坊でお酒も大好きで、よく食べ物の話をし、一緒にお昼ご飯を食べたことは何度もありました。

天ぷらを揚げて、おそばを茹でて、それにカレーライスも一緒になど、年齢の割には、たくさん召し上ってお元気でした。

蕎麦の葉の佃煮がお好きでした。できると必ずさしあげて喜んでいただき、田淵さんもラッキョウを漬けては私に届けてくださいました。入院後は冷蔵庫に残る食べか

けのラッキョウを手をつけることができず、お盆の壮年会と四十九日法要のお斎の席で皆さんに少しずつ食べていただきました。

門徒推進員の学びから帰って来られてからは、特に思うところがあつたご様子でした。研修会から帰られると、ご講師のお話を思い出し、私に伝えながら、み教えに出偶えた感動を話してくださいました。

「家内のことがなかったら、このような出偶いには恵まれなかった」と亡き奥さまのことをしばしば話されました。田淵さんの胸には常に奥さまがいらした、と私は感じています。最後の苦しい病床にあつては特に深く繋がっていました。ことと想像しています。

「明寿子が、今から行くから子どもたちにプールお願ひって言うんだけど、清潔にしなくちゃならないから急には無理だから明日にしてくれって言ったんですよ」ととても嬉しそうに話された夏の日。

田淵さんが愛した彩弥と弥那は「じいじびようきになっちゃったの」と、常に周囲に話していましたが、入院後は一度も会うことなくお別れすることになりました。

父亡き後の宗願寺と一緒に守ってきた恩人とお別れは、私にとっても悲しいできごとでした。何回か一緒に参拝旅行をし、多くの温かな思い出が宝物となりました。

何度も何度も「田淵さん、ありがとうございました」とお礼を言います。お念仏申すばかりです。

彩弥と弥那との日々 父の死に学んだこと

井上明寿子



彩那 (左) 弥那 (右)

子どもたちも五歳と三歳になり、それぞれの個性がはっきりしてきました。

大きくなったら何になる？と聞くと彩弥は緑のピーマンかアニメのプリキュア、弥那は黄色いナスか蝶々でした。黄色とナスが大好きなので、大きくなったら私に食べさせてくれるそうです。

笑ってしまうと同時に、子どもは壮大な感性を持つているなあと感じしました。

子どもたちの誕生日が過ぎて長い梅雨が明けた八月二日、昨年より入院していた父が亡くなりました。

当初から末期ガンと告知される過酷な状況で、日々弱っていく父を見るのは耐え難いものがありました。皆さまの応援や暖かい言葉をいただき、とても勇気づけられました。

父自身、いつ容態が急変してもおかしくない中を頑張ってくれて、最後は兄弟揃って「大丈夫だよ、来た場所に帰るだけだよ」と声をかけながら看取ることができました。

とても静かな、穏やかな時間でした。

退院できなかったのは本当に残念ですが、み教えの中には、死を間際にした相手に寄り添える言葉がたくさんあります。それは、私たちへの戒めであると同時に、救いの真実でもあります。

子どもたちにも「じいじには会えないの？」と聞かれたので、今は難しいけれど会えるよと伝えました。亡くなった方は仏さまになり、私も仏になる(成る)ということ

です。誰もが母親のお腹から生まれるように、一人ひとり違う道を歩んでいるように見えても、皆等しく平等に成仏するのだと改めて実感しました。

これからも子どもたちとともに、お念仏申す身でありたいと思います。

編集後記



今年身近な方の死を数回経験し、コロナ禍の憂鬱もあって自分の心を整えることが難しかったです。

私はお寺でお料理をして皆さまと一緒にいただくのが大好きです。それができない日々が続く、寂しい思いです。

秋のお彼岸前に境内の椿にチャドクガが大発生しているのに気づき消毒をお願いしましたが、お参りの方にご迷惑をおかけしました。その後も一度消毒し、これから木を切ったり枝を下ろしたり、整理することになります。

地球規模の異変がここにも、と感じています。

いつになったらお寺の日常が取り戻せるのか、悩ましいところですが、高齢の方が集う場所なので細心の注意が必要なのです。リフォームのすんだ本堂で、皆さまとともに思いっきりお勤めできる日を楽しみにしています。

合掌



発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真
(由美子)

カット・大建弘子
(印刷所・阿部印刷)